



編神考



木綿は、日々、育てられ、収穫され、紡がれ、織られ、あらゆる人が身につけています。

それは、生まれたばかりの赤子のからだをやさしくくるみ、

暑いときには汗をおさえて、からだを冷やしてくれます。

寒いときには、ふくんだ空気が、からだをあたためてくれます。

時には、かなしい、ときには嬉しい、いろんなひとのいろんな涙を受けとめ、

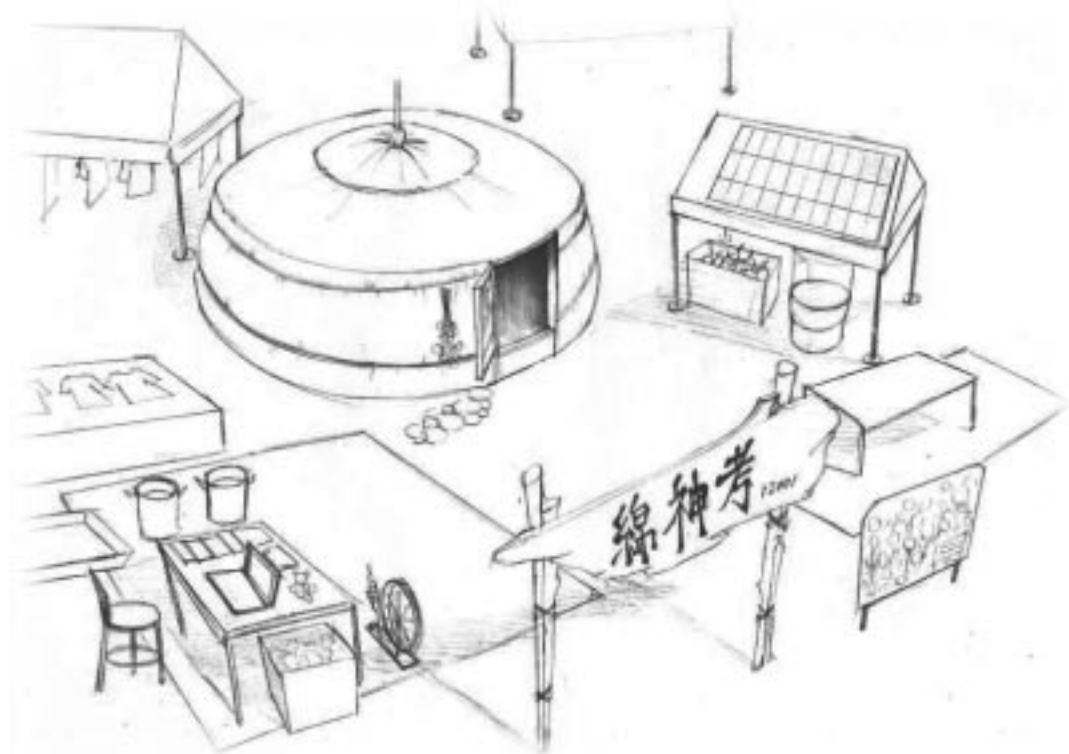
いつも人を包み、守ってくれます。

そして、しんだときにはともに焼かれ、ともにあの世へと…。

このプロジェクトは、そのような私達を包んでくれるものの中に、

あたかも綿花の中で種子のようにふあふあとお眠っているかもしれない

木綿の妖精や神様を見つけてみようというこころみです。



綿に触れ、人と語らい、新たな発見をし、  
自由にお絵描きなどしながら、歌い、  
そして笑いましょう。

## 綿 神 考 イ ベ ン ト 内 容

- r2001npo  
eARTH T シャツワークショップ、熊さん / 綿飴販売
- エコロジーオンライン  
活動告知、リンカラン販売 他
- しあわせのコットンボール  
和綿作りパネル展示、特製みそ等販売 他
- 鴨川和棉農園  
綿打ち、チャルカ、ガンジー・ワークショップ 他
- 久米繊維工業株式会社  
ワークショップ用オーガニックコットンTシャツ、水性インク提供
- 日本オーガニックコットン協会  
アーティストTシャツ展示販売 他

# しあわせの コットンボール

大地にこぼれたタネが春、芽を出し、ゆっくりと夏を待つ。暑い日ざしのなかに次から次へと黄色の花を咲かせる。

落下した花の中から小さな実があらわれ、秋の高い空の下、実を結び力強く弾ける。それがコットンボール。

私たちはこうした自然な営みをみなさまと共有するため、栃木県藤岡町でしあわせのタネをまき始めました。

今年は5月10日がタネまきの日にあたります。  
ぜひ、遊びにお越しください。

所在地：栃木県佐野市植上町 1331-6

エコロジーオンライン内

連絡先：0283-23-9758

U R L : <http://www.eco-online.org/cottonball/>

# N P O 日本オーガニック コットン協会

オーガニックコットンをとおして私たちがこの21世紀に守るものは何か、しなければならないことは何かを考え、行動する協会として発足しました。

きれいな地球を子どもたちに残してあげたい。そんな思いでオーガニックコットンの普及のために我々は活動をしています。

*I support organic cotton*

所在地：新宿区大京町 31 パークサイドビル 803

連絡先：03-3341-7200

U R L : <http://www.joca.gr.jp/>

# 紡いで いくこと



綿神考参加団体紹介

## r2001NPO

r2001NPOは、世界各国のアーティストとのコラボレーションにより形成されたネットワーク『Renaissance 2001 Project』の日本国内での活動や海外での活動のサポート事業を行っています。

私たちの芸術活動は、地球とともにあります。だから、自然を思う気持ち、人を思う気持ち、そして目に見えるものだけじゃないさまざまなことを思う気持ち、綿神考では、そうした気持ちを人々を通して紡いでいけたら、と思っています。

所在地：東京都西多摩郡瑞穂町大字石畑755  
田中ハイツ A-32

連絡先：042-551-1758

U R L : <http://r2001.net/>

特別協力：日本データインターナショナル  
グループ（プロジェクト提供）





# 久米繊維工業(株)

わたしたちの夢...

それは、ふるさと日本で育てた和綿を使って

「純国産のTシャツ」を創ること。

和綿を育てた人、

糸を紡ぎ生地を編んだ人、ミシンを踏んだ人、

そこに思い思いの絵や言葉を描いた人...

一枚のTシャツで「みんなの笑顔」が浮かぶような

「宝物」を創りたい。

Tシャツで「ぜんぶとつながる喜び」を

子供たちに伝えたい。

わたしたちは  
綿神考プロジェクトとオーガニックコットンを  
応援しています。

ISO14001認証取得  
NPO日本オーガニックコットン協会会員  
しあわせのコットンボール会員

久米繊維工業株式会社

**Jentle**  
www.-galaxy.com

〒130-0012  
東京都墨田区太平3-9-6  
03-3625-4188



## エコロジー オンライン

エコロジーオンラインは、自然環境と人間が心地よい関係でいられる社会を目指し、地産地消型のオーガニック文化の啓蒙活動を行っています。

今回の「綿神考」は、私たちの“衣”のあり方を見つめ直す取り組みと考え、参加させていただくことにいたしました。

所在地：栃木県佐野市植上町 1331-6

連絡先：0283-23-9758 (090-8089-2710)

URL：<http://www.eco-online.org>



## 鴨川和棉農園

日本綿栽培、自然卵養鶏、無農薬有機栽培野菜・米作りなどの農的暮らしを営む。コットンボール銀行参与。和棉(わわた)のタネを守るネットワーク事務局長。

編著「ガンジー自立の思想=自分で紡ぐ未来(地湧社刊)小冊子「ワタをめぐる情報と人と暮らしの交流誌 わたわたコットン」NO.1~4、「和棉(わわた)のタネを守るネットワーク交流誌 わわたネット21」創刊号 発行人。

所在地：千葉県鴨川市西 317-1

連絡先：0470-92-9319

URL：<http://www1.ttcn.ne.jp/wamen-nouen/>

# 綿神考イベントスケジュール

## 4/19

- ・ r2001npo  
eARTh Tシャツワークショップ、  
熊さん/綿飴販売
- ・ エコロジーオンライン  
活動告知、リンカラン販売 他
- ・ しあわせのコットンボール  
和綿作りパネル展示、  
特製みそ等販売 他
- ・ 日本オーガニックコットン協会  
アーティストTシャツ展示販売 他

- ・ 鴨川和棉農園  
綿打ち、チャルカ、  
ガンジー・ワーク  
ショップ 他

終了

10:00

ゲル設置  
(見学自由)

11:00

12:00

13:00

14:00

15:00

16:00

17:00

- ・ r2001npo  
eARTh Tシャツワークショップ、  
熊さん/綿飴販売
- ・ エコロジーオンライン  
活動告知、リンカラン販売 他
- ・ しあわせのコットンボール  
和綿作りパネル展示、  
特製みそ等販売 他
- ・ 日本オーガニックコットン協会  
アーティストTシャツ展示販売 他

## 4/20

「綿神考」とは、南方熊楠の書簡に名付けられた表題です。とある人に、この八百万の神々の日本の国の木綿の神とはなんだろうかと問われ、答えたものです。

熊楠は、「日本には『農業全書』巻六に、『本朝にも百年以前その種を伝え来たりて今あまなく広まれり』とあることから、木綿のなかった古代には、人々は貧富を問わずに麻を着て寒さを凌いでいたものが百年前に木綿が入ってきて広まった、と考えます。

そして、「この『百年以前』と書かれたのは元禄8年であったことから、『百年以前』は『百年前』というは文禄四年なり。」と考えるのです。

つまり、神話の時代に日本には木綿がなかったのです。また、西洋においても一神教が広まった後に紡績がはじまったので、木綿の神はいないとしています。インドから綿布は輸入していたものの、栽培はしていなかったため木綿の神様はいなかった、というわけです。

そして、だったらこの国にはいるだろう、と当然考えられるインドでも、「しかるにどういうものか、梵教にも仏教にも、これを神

聖視せず」「かく綿花をつまらぬものと見た理由は分からねが」と、すでにさまざまな用途に使われていたにもかかわらず、木綿が尊重されていないことに首をかしげます。

そして、熊楠はこう結論づけます。  
「小生考えには、これは木綿は元来インドの原産でなく、外国(例せばマレー地方)より伝殖したゆえと存じ候。」

木綿の神を探して、資料をひもといていたところ、やっとブラジルの神話にその神を見つけます。

「真にこれぞ真正正銘の木綿の神と申すべきはブラジルにあり。それはアガツシーの説に『ブラジル旅行記』に出づ)、人類の始祖カポ・サカイブは、その子プライルがおのれに従順なるも一向これを愛せず、サカイブ一計を案じ、帯獣(アルマジロ) armadillo (ちよつと兎のような獣で、全身鱗甲をかぶり、土をほることすこぶる速やかなり)を作り、尾だけ地上に露わして、他は地下に埋めおく。それから倅よ、帯獣をとらえ来たと命ずるに、プライルが往って獣の尾をつかむと、たちまち強くこれを地下に引きこんでしまった。プライル頓智をもって地上に

にげ帰り、地下に往つて見ると耕作上手の男女がおる、と父に咄す。サカイブ、倅にだまされて世界始めての木綿の縄を作り、地下に下ろして地下の人を引き上げると、上がったきた人間ははなはだ小さく醜し。しかし縄を引き上げれば引き上げるほど美しき人間が上がり来る。よつていよいよ尽力して最も美しい人間を引き上げんとする刹那、縄は切れて一番上等の人間は永く地下に残った。これが地上に住むわれわれ人間に美麗なものが少ない理由だという。すなわちこのサカイブこそ初めて木綿を作った神だ……」

たとえば空気のように、木綿はその存在さえにも気付かないほど、生活に溶け込んでいるもののようにです。木綿の親和力というものをここで見直し、その核心に触れることは、見失いかけている人間と自然のつながりを見いだすことになるのではないのでしょうか？





# 綿神考

2003年4月19日発行  
編集・製作 / 綿神考プロジェクト  
<http://r2001.net/kyoko/menshinko/>